

平和への想い

広島平和ツアー体験記

【問合わせ】総務課 ☎84-0613

半田市は、昭和33年に全国に先駆けて非核平和の実現に関する議会決議を行いました。また、日本非核宣言自治体協議会及び平和首長会議にも加盟し、非核平和の実現に向けて様々な取り組みを行っています。

その取り組みのひとつとして、次代を担う若者たちに平和の大切さを知ってもらうための「中学生平和研修」を実施しています。

今年は、8月27日(火)、28日(水)に半田中学校と乙川中学校の生徒8人が広島市を訪問しましたので、その体験記を紹介します。

なお、市役所などで行った原爆パネル展にあわせて、市民の皆様へ平和を祈念して作成いただいた約5千羽の折鶴につきましては、研修に参加した中学生が広島へ届けました。

皆様ご協力ありがとうございました。



▲広島平和記念公園内の「原爆の子の像」前にて撮影

きしもと さわ
岸本 彩和さん(半田中学校2年生)

「あれは地獄だった。」

原爆投下後に広島に派遣された私の曾祖父はこう言ったそうです。私は平和記念資料館で、原爆の悲惨さを目の当たりにしました。血のついた穴だらけの服や片方だけの靴。やけどした人々の写真の中には、私たちと同じ中学生やもっと小さい子供もいました。被爆者、亡くなった14万人の人々は、どれだけ怖い思いをしたのだろうか。どれだけ辛い思いをしたのだろうか。そう思うと心が苦しくて、思わず泣いてしまいました。

一瞬で何万人もの命を奪った原爆。被害はすさまじく、目を背けたくなるような惨状でした。しかし、私たちはこのことにしっかりと向き合っていかなければならないと強く感じました。こんなことは二度とあってはなりません。過去を知り、考えて行動することが、平和につながると思います。だから、私は研修で学んだ原爆の悲惨さや、平和の大切さを後世に伝えていきたいです。

さとう あやみ
佐藤 綾美さん(乙川中学校2年生)

公園の原爆ドームは、写真で見るよりもずっと、戦争の残酷さを物語っていました。むきだしの鉄骨や砕けたがれきを目の前にすると、現実でおこったことなのだと、あらためて感じました。資料館にはおもわず目をそらしたくなるような写真や当時のものが展示されており、中には私と同じ中学生やもっと小さい子どものものまでありました。私達と同じように学校に通い、家族や友達と過ごす日々突然襲った恐怖。もし今おこったら…と考えるだけで言葉もでませんでした。

被爆者のやはたてるごさんは、当時の状況を話して下さいました。それは想像ができないほど悲しいものでした。やはたさんに私は「本当の平和とは何か」と質問をしました。すると「あたりまえに日常がおくれ、人を愛し愛されること」だと答えて下さいました。私はこの言葉を、この目で見たものを心の中だけでとめるのではなく沢山のの人に伝え、私達で平和を創っていきたくて強く思いました。